

月刊

あなたにこの本を！

令和6年12月号

大阪市立図書館「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。



…字が大きめ



…中高生にも



…図・写真が多い

※価格のあとの（ ）内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。



注文に時間がかかるカフェ



ーたとえば「あ行」が苦手な君にー

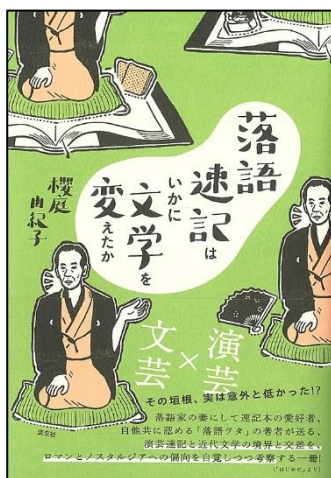
大平一枝 著

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

ポプラ社

1800 円 (0015469307)

言葉を繰り返す、引き伸ばす、出にくいなどの吃音（きつおん）の症状があるのは 100 人に 1 人といわれる。「言い終わるまで待ってください」など書いたパネルを持った、吃音の若者が接客する一日限定の出張カフェを、エッセイストが取材した。話すことが大好きなのに苦手で、接客の夢などを諦めてきた若者たちが、どんな想いでカフェに応募し、経験を経てどう変わっていったのかを描く。吃音を理解することを手助けし、吃音に悩む人々を励ましてくれる。[496.5]



落語速記はいかに文学を変えたか

櫻庭由紀子 著

ジャンル：歴史・文化に親しむ

淡交社

1900 円 (0015502583)

録音技術が生まれる前から、ライブ情報を現場の外に伝える手段だった速記。文語体に表現の限界を感じた明治の文学界で、言文一致運動に落語の口演速記が大きな影響を与えたことを、落語オタクのライターが解説する。速記本第一号『怪談牡丹燈籠』の作者・演者である名人・三遊亭圓朝、落語の影響も色濃い小説を書いていた文豪・夏目漱石など、各界のエピソードが興味深い。軽妙な語り口からは当時の世相がリアルに伝わり、口語体ならではの臨場感に気づくことができる。[913.9]

日本の動物絵画史



金子信久 著

NHK 出版

1350 円 (0015467764)

ジャンル：知識・教養を深める

古代より日本で描かれてきた動物の姿から、日本人の動物観と造形の歴史を読み解いた。日本には世界でも珍しいほど多彩な動物絵画があり、特に「かわいい」絵には事欠かないと著者は言う。骨格も柄も写実的なのにぬいぐるみのような応挙の虎の絵、「きゃふんきゃふん」の文字も一見落書きのようでかわいい禅僧・仙厓(せんがい)の犬の絵など、数多くの図版とその絵の何がすごいのかを紹介する。画家たちが動物に向けたまなざしと、技術の蓄積を経て花開いた多様な描き方を知ることができる。[721]

生きもののたちの眠りの国へ

森 由民 著 関口雄祐 監修

緑書房

2200 円 (0015464208)

ジャンル：知識・教養を深める

リスとクマで大きく異なる冬眠の仕組みや脳のない生物の「睡眠」など、奥深い眠りの世界を動物園ライターが紹介する。一度に長い時間眠るヒトからすると、鳥類が数秒のレム睡眠を繰り返し、は虫類が脳を半分ずつ休ませる事実には驚かされる。寝不足が生物にもたらす影響にも触れられ、眠りを妨害されたラットが過食の果てに死に向かう実験結果には背筋が凍る。眠らずにはいられない宿命に、あの手この手で適応する生物進化の面白さを楽しめる。[481.3]

日本語の秘密

川原繁人 著

講談社

900 円 (0015488948)

ジャンル：知識・教養を深める

音声学を専門とする言語学者が、歌人・俵万智や声優・山寺宏一など4人の「ことば」のプロと一対一で語り合った。短歌の字余りや声での演じわけ、日本語ラップの韻など、感覚的に行っていた表現方法を著者が分析し言語化することで、プロ達も気付いていなかったことばとの向き合い方が見えてくる。読み聞かせ、声優業、英語との差異、AIなど、多岐にわたる話題を通して日本語の魅力について探っていく。分析と対談を通じ、日常の何気ないことばにも愛着がわいてくる。[804]

システム更新のための臨時休館のお知らせ

図書館情報ネットワークシステムの更新のため、大阪市立図書館は全館臨時休館いたします。

令和6(2024)年

令和7(2025)年

中央図書館	12月16日(月曜日)から	1月15日(水曜日)まで
地域図書館		1月16日(木曜日)まで
自動車文庫	12月9日(月曜日)から	1月13日(月曜日)まで

次号の「月刊あなたにこの本を！」は、令和7(2025)年2月1日(土曜日)に発行します。

大阪市立図書館ホームページ <https://www.oml.city.osaka.lg.jp/>